

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	卒業：選択
担当教員			
井田 裕子			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは家族の中に誕生し家族に育まれ成長発達しており、子どもと家族は一つの単位であること 又子どもを取り巻く人々地域社会との関連があることをとらえる。</li> <li>・「何か変！」と言うように いつもと違うことに気づく能力を身につけて、観察の重要性と主な症状に対する関わり方や健康問題とその対応を事例紹介などで深める。</li> <li>・子どもを取り巻く環境や事故の要因について特徴をとらえて 応急措置や予防法を学内演習で学ぶ。</li> <li>・安静を必要とするこどもの遊びについてはグループワークで具体例を出し合いながら検討し内容を深めていく。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児看護の特質 小児看護の対象と目標、小児看護の場と役割</li> <li>2 小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響 小児の健康問題・子どもの反応・親や兄弟の反応</li> <li>3 子どもの健康状態の把握 観察の重要性（異常の気づき）、病気の特徴</li> <li>4 小児にみられる主な症状の見方と対応 啼泣・不機嫌、発熱・せきなど</li> <li>5 小児にみられる主な症状の見方と対応 腹痛・下痢・便秘・嘔吐・脱水など</li> <li>6 小児にみられる主な症状の見方と対応 頭痛・けいれん・発疹など</li> <li>7 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザ）予防接種</li> <li>8 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど</li> <li>9 くすりの取り扱いと服薬法 服薬法（散剤・水薬・シロップ）座薬の使い方・救急箱</li> <li>10 子どもの事故と安全対策 事故の原因・救急措置・異物誤嚥</li> <li>11 子どもの事故と安全対策 切傷・刺傷・擦過傷・骨折・熱傷・鼻出血</li> <li>12 保育における子どもの健康管理 保育中の子どもの体調不良や感染症発生時の対応</li> <li>13 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静の必要性、安静を必要とする子どもの遊び グループワーク</li> <li>14 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静を必要とするこどもの遊び グループワーク</li> <li>15 保育者としての健康管理 個人衛生・自己管理</li> </ol>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小児看護の特質や健康問題が及ぼす家族への影響が理解できる</li> <li>②小児にみられる主な症状の見方と看護の基礎知識を身につけることができる</li> <li>③小児がよく遭遇する健康問題のある子どもへの対応が理解できる</li> <li>④こどもの事故の特徴をとらえ事故防止と安全の重要性がわかる</li> <li>⑤安静を必要とするこどもの遊びを考えその関わり方がわかる</li> </ol> <p>授業終了後の筆記試験（60%）、授業内の課題提出（30%）、学習の取り組みや態度（10%）を総合して評価をおこなう。</p>
教科書・参考書	テキスト：「小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」 医学書院
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。